

建交労大阪府本部
機関紙

 発行元 府本部
 電話 06-4800-7115

大阪から建交労中央行動に結集

3月6日(木) 建交労中央行動「建交労2025年春闘中央決起集会」が衆議院第一議員会館大会議室で行われ、約130名のなかまが集まり、全国酸素部会8名、大阪トラック部会2名、大阪合同支部1名、関西支部4名が参加しました。

足立中央執行委員長のあいさつでは「実質賃金が上がらない中、物価・燃料高騰により25春闘を取り巻く情勢は日本の全ての人が対象。拡大し続ける大企業の内部留保を社会的に還元させ、中小企業へ回せる。中小労働者の大幅賃上げで経済回復を目指す。全国一律最低賃金1,500円実現で全ての職場で賃上げさせる。8割を超える未組織労働社、国民全体への世論を大きく着くって行くことが重要。自動的には賃金や組合員は増えない。全ての職場で、あらゆる行動を展開し、なかまの力を総結集して、25春闘を粘り強くたたかい抜きましよう。」と力強く述べられました。

全国トラック部会の決意表明として、東幹事より「現在トラック産業の状況は、長年、低賃金、

長時間労働が当たり前になっており、ドライバー不足になっている。大型免許取得に経験年数、年齢制限もある上、教習所の料金が高額な為、取得数が年々減少している。ドライバーの高齢化が進み、このままでは、トラック産業が衰退していく。」と訴え、「現在の改善基準告示は不完全。運賃や多重下請け構造に対しても強制力のある法案にし、労使協に魅力あるトラック産業にしていけるよう、政府・各省庁に



全国酸素部会の仲間のみなさん

訴えなければならぬ。適正運賃を試算すれば10トトラックドライバーで年収700万円は可能。即結果が出るわけではないが、長い時間がかければ実現出来る。25春闘をトラック産業改善元年と位置づけ春闘をたたかう。」と力強く決意表明されました。その後、

「労働条件確保等に関する請願」署名4,215筆を厚生労働省の担当職員へ提出し、最後に川路中央副委員長の団結ガンバローで25春闘をたたかい抜き、要求実現の為にがんばりましよう。

(記事作成…大陽液送分 会大田貨物班・長谷川達三)

トラック・ダンプ・パレードで春闘アピール

大阪府本部と大阪トラック部会の共済で、3月9日(日)に「多重下請け構造の禁止！適正運賃の義務化！」、「運輸・建設労働者の大幅賃上げと労基法改悪反対！」、「万博開催、カジノ建設中止！消費税廃止！インボイス制度の廃止！」をスローガンにトラック・ダンプパレードを実施しました。大阪府本部と大阪トラック部会共催のトラック・ダンプパレードは、午前8時30分から

夢洲コンテナヤードで決起集会を行い、荻田書記長の司会進行で始まりました。冒頭に主催者を代表して実行委員長の前村執行委員長があいさつ。前村執行委員長は、「私たち建交労大阪府本部は、春闘アンケート・生計費原則に基づく統一要求基準として日額2,000円以上、月額4万4,000円以上、パート・短時間労働者の時間給250円以上の要求実現を



決定し、要求提出対象職場40職場で2月3日を皮切りに要求書を提出。建交労が組織する企業規模は圧倒的に中小零細企業です。個別の企業単位だけの交渉では、燃料高騰・光熱費をはじめとする物価高による経費増大、見通しがつかないなどを理由に、賃上げ交渉が進まない状況も考えられる。」と述べたうえで「早々に1万3,200円の引き上げ回答の職場も出てきている。粘り強く経営者を説得する交渉力がなければ自らの生

活は守れない。あきらめず最後まで交渉しよう。」と呼びかけました。来賓あいさつとして日本共産党・清水ただし元衆議院議員、大阪労連・福岡議長、大阪建設共闘・矢野事務局長、大阪交運共闘・庭和田事務局長からあいさつを頂きました。その後、大阪トラック部会・東事務局長から注意事項の説明があり、最後に大阪トラック部会・橋本部会長の団結がんばろうで決起集会が終了。決起集会終了後は、物価高騰を上回る賃上げ獲得、

消費税廃止、インボイス制度の廃止や万博開催中止、カジノ建設阻止など市民にアピールしながら大阪市内に向けてパレードを実施しました。また、野田阪神駅前では、関西支部組合員のみなさん13名で春闘宣伝、なんば一栄前では、全体で15名が参加。大阪合同支部9名、国交労組2名、国家公務員ユニオン3名、大建労1名が参加していただきました。決起集会の全体参加者は122名、パレード参加者は34台と宣伝カー3台でした。

大阪総行動に建交労大阪が結集

建交労大阪府本部は、3月13日(木)回答指定日の翌日の統一行動として取り組まれた「3・13大阪総行動」に結集しました。大阪総行動は、終

日行動として行われ、早朝には、なんば駅前と淀屋橋駅前の2カ所で春闘宣伝を行いました。

建交労大阪は、なんば駅前に10名の参加者(関



なんば一栄前・荻田書記長

西支部4名、大阪合同支部1名、此花支部1名、関西ダンブ支部2名、鉄道2名が結集しました。

なんば駅前の宣伝行動では、荻田書記長が建交労を代表して弁士を務めました。荻田書記長は「今年3月に入ってから物価高騰が収まる気配がない。また燃料高騰により、労働者の実質賃金は減るいつぼうで厳しい生活になっている。にもかかわらず、政府は消費税の減税や暫定税率の引き下げに難色を示している。その一方で厚生年金保険料や健康保険料を引き上げようとしている。また、高額療養費の上限額まで引き上げようとしている。しかし、国民世論の批判の声が相次ぎ、政府も高額療養費の上限額引き上げを見送ることになった。要するに声を上げなければ改悪されるの



JR西日本本社前抗議宣伝

が、今の自公政権だ。」と指摘し、「今、多くの国民が望んでいるのは、消費税の減税で可処分所得を増やし暮らしを豊かにすることが必要であり、経済を活性化させる近道です。」と述べた上で、「建交労大阪が多数組織する運輸業は、長時間労働と

低賃金が当たり前の業種になっている。運輸業の魅力ある業種にしていくには、『多重下請け構造の禁止、適正運賃の義務化、改善基準告示の見直しが必要だ。』と訴えました。

その後は、JR西日本本社前で建交労西日本



女神像前決起集会

鉄道本部が取り組んだ抗議宣伝行動に建交労の仲間のみなさん総勢24名が結集しました。西日本本社前では、前村執行委員長が激励のあいさつ。前村執行委員長は、「JR西日本鉄道会社は、労働組合の要求に応える十分

な支払能力をもっている。働くすべての労働者、関連下請け業者への適正な単価の支払いを実践していただき、安心して働き続けられる会社にする。ことと、利用者の安全に対する経費をしっかりと組み込みされることを強く

訴える。」と述べました。当該の建交労西日本鉄道本部の高田さんは、「昨年を上回る賃上げ回答額になりましたが、我々の組合が要求した3万8,000円には届かない回答額だ。」と回答額の引き上げを求める訴えをしました。午後12時15分からは、本町にある国際ビル前から大阪市役所前の女神像までデモ行進し、女神像前で総勢350名が参加して決起集会を行いました。建交労大阪の参



加者は、8名が参加しました。決起集会終了後は、女神像前から西梅田公園前まで「物価高騰を上回る大幅賃上げを勝ち取るう！大企業は内部留保を社会的に還元しろ！」など訴えながら大阪市民・府民にアピールしながらデモ行進しました。

第96回大阪メーデー・扇町公園 各支部から最大限の参加を呼びかけます。